## 11 学生のキャリア形成支援活動(4類型)―特徴の比較―

以下の表は、学生のキャリア形成支援活動(4類型)の主な特徴を一覧表にまとめたものです。 各タイプの特徴に関するより詳しい内容については、 産学協議会2021年度報告書「産学協働

		タイプ1: オープン・カンパニー	タイプ2: キャリア教育
	①目的	個社や業界に関する情報提供・PR	働くことへの理解を深めるための 教育
	②代表的ケース (主に想定されるも の)	企業・就職情報会社や大学キャリア センターが主催するイベント・説明 会	●大学等が主導する授業・産学協働 プログラム(正課・正課外を問わない) ●企業がCSRとして実施するプログラム
主な特徴	③就業体験	なし	任意
	④参加期間 (所要日数)	超短期(単日)	授業・プログラム によって異なる
	⑤実施時期	時間帯やオンラインの活用等、学業 両立に配慮し、学士・修士・博士課 程の全期間(年次不問)	学士・修士・博士課程の全期間(年 次不問)。但し、企業主催の場合は、 時間帯やオンラインの活用等、学業 両立に配慮
	⑥取得した学生 情報の採用活 動への活用	不可	不可

- ★(e)情報開示要件:タイプ3の実施にあたり、募集要項等に、以下の項目に関する情報を記載し、

  - ①プログラムの趣旨(目的)、 ③就業体験の内容(受入れ職場に関する情報を含む)
  - ②実施時期・期間、場所、募集人数、 ④就業体験を行う際に必要な(求められる)能力 選抜方法、無給/有給等
    - ⑤インターンシップにおけるフィードバック
- ▶ タイプ1~4は学生のキャリア形成支援に係る取組であって、採用活動ではありません。 学生は採用選考活動開始時期以降、改めて採用選考のためのエントリーが必要になります。
- **タイプや基準の詳細**のほか、インターンシップ実施の際の体制整備、安全、災害補償の確保、 ハラスメント対応、労働関係法令の適用、受け入れ時の公平性等の確保等の 留意事項は、3省 合意をご確認ください。

による自律的なキャリア形成の推進」の33~45ページをご覧ください。

類型			
タイプ3: 汎用的能力・専門活用型インターンシップ	タイプ 4 (試行): 高度専門型インターンシップ		
就業体験を通じて、学生にとっては自らの能力の見極め、 企業にとっては学生の評価材料の取得	就業体験を通じて、学生にとっては実践力の 向上、企業にとっては学生の評価材料の取得		
企業単独、大学等が企業あるいは地域コンソーシアムと連携 して実施する、適性・汎用的能力ないしは専門性を重視した プログラム	<ul><li>ジョブ型研究インターンシップ (博士課程学生を対象に文科省・経団連が共同で試行中)</li><li>● 高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称)(産学協議会で検討中)</li></ul>		
必須  ★ (a) 就業体験要件 学生の参加期間の半分を超える日数を職場での就業体験に充てる (テレワークが常態化している場合は、テレワークも「職場」) ★ (b) 指導要件 就業体験では、職場の社員が学生を指導し、インターンシップ終了後、学生に対しフィードバックを行う	必須		
★(c)実施期間要件 (i)汎用的能力活用型は短期(5日間以上) (ii)専門活用型は長期(2週間以上)	<ul><li>●ジョブ型研究インターンシップ:</li><li>長期(2カ月以上)</li><li>●高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称):検討中</li></ul>		
★ (d) 実施時期要件 学業との両立の観点から、「学部3年・4年ないしは修士1 年・2年の長期休暇期間(夏休み、冬休み、入試休み・春休み) 但し、大学正課および博士課程は、長期休暇に限定されない	_		
採用活動開始以降に限り、可	採用活動開始以降に限り、可		
ホームページ等で公表してください。			

- ⑥採用活動開始以降に限り、インターンシップを通じて取得 した学生情報を活用する旨(活用内容の記載は任意)
- ⑦当該年度のインターンシップ実施計画 (時期・回数・規模等)
- ⑧インターンシップ実施に係る実績概要 (過去2~3年程度)
- ⑨採用選考活動等の実績概要※企業による公表のみ

出典:「産学で変えるこれからのインターンシップ」(採用と大学教育の未来に関する産学協議会作成

3省合意文書

採用と大学教育の未来に関する 産学協議会ホームページ



